

りゅうおう

議会だより

No.182

2018年2月1日
滋賀県竜王町議会



竜王にいるは
カルタ大会

- 定例会報告 P2～台風21号が襲来
- 委員会報告 P5～公共交通のあり方は
- 一般質問 P8～コンパクトシティ化の進捗は
- 追 跡 P15 地域防災情報システムの構築は
- シリーズ P16 いきいき人生

に襲来

田畑・里中冠水

農作物・自家用車・農機具が被害に



平成29年10月23日未明、台風21号による大雨で弓削地先の一級河川新川が決壊し、竜王町北部地域は多くの田畑が冠水しました。また、弓削地先では工場からの油の流出により農作物に大きな被害が発生しました。
一般質問では3議員が台風関連の質問を行い、町の対応を問い質しました。
(関連ページP8以降)

田畑・里中の冠水(弓削地先)



新川(弓削地先)の決壊箇所



新川決壊により道路・駐車場のアスファルトがはがれる

台風21号 竜王町

新川(弓削・須恵地先) 決壊

意見書を国・県に提出

台風被害の大きかった弓削自治会他から意見書の提出を求める請願が出されました。

請願は、本会議で採択することに決定され、総務産業建設常任委員長から、「台風21号による災害対策に関する意見書」を国・県へ提出することについて、提案があり可決されました。

意見書の要望事項

1. 今回の河川災害を激甚災害に位置づけ、一級河川新川の決壊箇所の早期完全復旧および下流区域（約800m）の抜本改修を早期に実現すること。
2. 油流出による農作物および農地への二次災害について、発生した農業被害の補償・支援を行うとともに、農地の安全性を担保する対策のため、十分な財政支援措置や柔軟な制度運用など必要な措置を講ずること。
3. 主たる要因である一級河川日野川の抜本改修を国直轄事業とし、更なる改修の進捗を推し進めること。

請願審査を行いました！

請願の受理

議会運営委員会で協議

（紹介議員より説明）

付託

総務産業建設

常任委員会で審査

審査報告

本会議で議決

（採択・不採択を決定）



総務産業建設常任委員会の

審査での主な質問

問 農地の安全性を担保とする対策と営農の継続を保証する意味とは何か。

答 （請願者）油の流出については、今後、同じことが発生しないように行政指導をしっかりとってもらいたい。

農地は本当に安全なのか、農家は心配であり、弓削の農地を守っていききたい区民の思いもあるので、意欲を持って継続できるような安全確保をお願いしたい。



水稻の植え付けを待つ弓削の農地

～定例会で何が決まったの～

12月定例会を12月5日から21日までの17日間の会期で開催しました。

有線放送施設管理等基金条例、下水道事業の設置等に関する条例など10議案と専決処分を含む補正予算13議案、請願1議案、意見書2議案、その他1議案を原案どおり承認・可決・採択しました。

補正予算 主要内容

平成29年度一般会計補正予算は、1億2,270万円を追加し、予算総額61億5,825万円に決定しました。



**竜王西小学校
プール改修工事**
1,485万円

プール内面の塗装
の劣化が激しいこ
とから危険のある
箇所を修繕



**放課後児童健全育成事業
学童保育所
(竜王小学校)改修**
235万円

教室の壁面・
トイレ等の改修



新川(須恵地先)決壊箇所

災害復旧等関連経費
763万円



**滋賀竜王工業団地内の
多目的広場・
駐車場の整備 等**
1,400万円



中学生の認知症学習会

**介護保険制度改正に伴う
システム改修業務委託料**
196万円

常任委員会の活動

審査

平成29年度一般会計補正予算(第6号) (予算決算常任委員会)



改修予定のトイレ

- 問** 時間外勤務手当の補正予算額が前年度と比較して大幅に増加しているが、要因は。
- 答** 主な要因として、10月に発生した台風21号への対応に伴うものと、当初予算の見込みが少なかったものであったことが要因である。
- 問** 学童保育所(竜王小学校) 改修工事の内容は。
- 答** 主なものは壁面の塗装、入り口ドアの改修、トイレの改修等である。

一般会計と特別会計はどのようなもの?

一般会計…教育や福祉、公共施設の整備、町役場の運営など、町民の皆さんに身近なものに使われる会計

特別会計…町の行っている事業のうち、国民健康保険、介護保険など特定の目的や収入がある事業ごとの収支を明確にする会計(6会計)



審査

有線放送施設管理等基金条例の制定 (総務産業建設常任委員会)

目的

竜王町有線放送農業協同組合から継承する施設について、町が今後その管理および処分をすることを目的に基金を設置。

継承される施設は?

建物、構築物(電柱、線路設備)、機械装置(放送設備、電話設備など)、車両運搬具、工具・備品など



有線放送の電柱

- 問** 有線放送から引継ぐ現金はいくらあるのか。
- 答** 現時点で引継ぐ現金は電柱等の撤去費用を含め約3,600万円である。

調査

公共交通のあり方検討（総務産業建設常任委員会）

竜王町にふさわしい公共交通を検討していく!!

現 状

☆5路線

（岡屋線、八幡竜王線、八幡アウトレット線、八幡村田線、野洲アウトレット線）

☆費用負担 年間 約4,000万円

（岡屋線・八幡竜王線の赤字補填、スクールバス委託料含）

社会実験

☆子育て応援路線バス定期補助の検討

学生を対象に通学定期の半額補助の検討

☆夜間便の増便等の検討

スケジュール

☆平成31年度まで、社会実験の実施

☆平成32年度までに、あり方の方向性を示す

答

京都大学と連携し、町の公共交通を検討しようとしている。例えば、野洲アウトレット線を役場まで延ばすことができるか研究していきたい。

問

北部地域からフレンドタウンに行く路線がないので、あれば利用者も増えるのではないかな。



タウンセンター付近（岡屋線）

調査

町道殿山線道路改築事業の状況（総務産業建設常任委員会）



町道殿山線

◆道路計画

山之上地先（蒲生野の湯横交差点から、県道彦根八日市甲西線まで）延長390m、車道6.5m、歩道2.5m

◆経過&今後

現在は東側（県道方面）180mの用地測量を実施中で、一部用地の先行取得をし、30年度に東側残り用地取得、31年度以降に東側の工事・西側の用地測量・用地取得・工事の予定。



地域包括支援センターの活動内容（教育民生常任委員会）

地域包括支援センターとは、高齢者に関する様々な相談に対応し、住民や専門職と協働して地域づくりを行っていく機関であり、地域包括ケアの中核を担う。

- 現 状**
- ・ 町直営のため様々な部署と連携が取りやすい
 - ・ 総合相談業務 1235件（相談対応）
 - ・ 要支援者の介護予防プラン作成委託 799件
 - ・ 権利擁護業務
 - ・ 認知症施策
 - ・ ケアマネジャーの後方支援

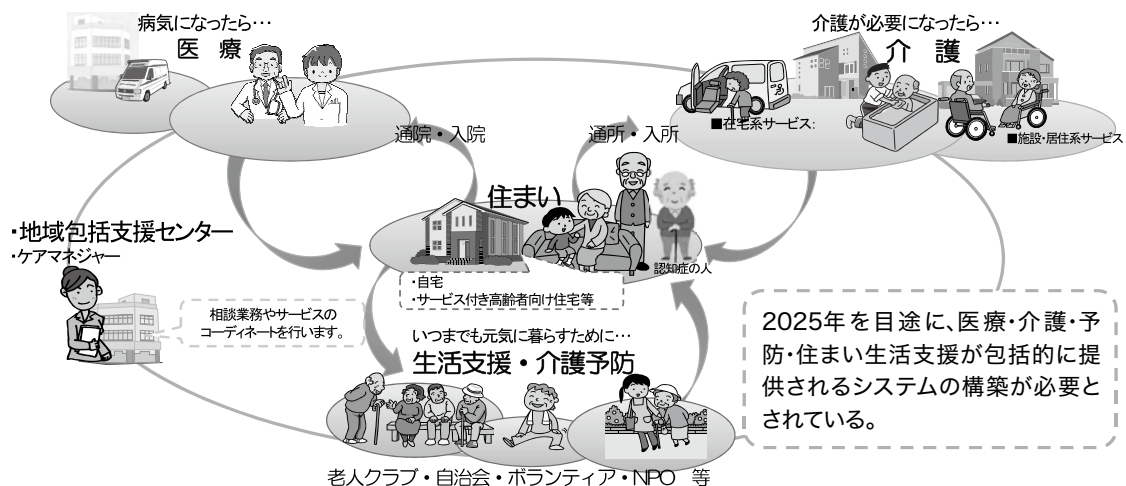
- 課 題**
- ・ 相談に対応するための専門職の確保

問 介護予防で地域との関わりを維持するために考えられる事業は。

答 高齢者の生きがいやニーズは多種多様であり、趣味活動等の交流の場が大事。社会福祉協議会や多様な主体も介護予防に繋がる活動をされている。

※件数は、平成28年度実績

地域包括ケアシステムへのイメージ



放課後児童クラブの検討は（教育民生常任委員会）



多くの子どもたちが利用する児童クラブ

利用児童数が増加する中、施設の課題を解決するために、利用可能教室についての検討を重ねた。

どうなるの？



平成30年4月から竜王小学校区の学童保育所は2クラブとなり、施設は、以前学童保育所として利用されていた竜王小学校の教室を充てる。学校とは防火シャッターで区切る。

町政

ここを聞く!

12月定例会では9議員が
15問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
9	山田義明	情報化時代の少年期に新たな取り組みを
	貴多正幸	平和祈念式の今後は
10	森山敏夫	住宅確保対策の進捗状況は
		公共交通システム構築の進捗状況は
		台風 21 号の教訓と危機管理は
11	松浦 博	コンパクトシティ化の進捗は
	古株克彦	空き家対策は
12	内山英作	新川決壊の原因と予防対策は
		竜王町北部地域の浸水対策は
13	小西久次	就学前教育と学校教育の今後は
		土地改良団体の設置は
		重点道の駅の課題解決は
14	森島芳男	台風 21 号の被害は
		身体が不自由な方への配慮は
15	若井猛志	「我が事・丸ごと」地域共生社会と社会保障は

そうだ!! 傍聴に行こう!

議会ではどんな政策が審議されているか、あるいは自分が選んだ議員がどのような活動をしているかなど、傍聴は議会の動きに触れることのできる身近な方法です。議会事務局（☎58-3713）にお問い合わせ下さい。

次回の一般質問は 3 月中旬 予定

一般質問って?

町の行政全般について議員が町長をはじめとして担当部局に疑問点を質したり、見解などを尋ねたりするもので、毎定例会で行われるよ



近江うし丸



山田 義明 議員

問 情報化時代の少年期に 新たな取り組みを

答 プログラミングでロボット教室も開催

答 町公民館ではサイエンスクラブで小学生を対象に科学工作や天体の観測など体験を踏まえた場を提供している。

問 最近IoTや人工知能の活用といった情報技術革新は、目まぐるしく進化している。
次代を担う子ども達にも、このような社会に対応すべき能力を身に付けられるよう、土・日曜日を活用した継続的な取り組みができないのか。

町地域振興事業団ではロボット教室を開講し、来年度もプログラミングによるロボット教室に取り組まれる。

また、町では、夏休みに工作教室を開催され、科学に関する体験の場を提供されている八幡工業高校と連携し出前講座などに取り組む。

このほか、町内企業と連携し、工場見学などを通じ、生産ラインで活躍するロボットを始めとした最先端技術を目の当たりにすることで知的好奇心を高める。



地域振興事業団によるロボット教室

問 平和祈念式に一般の参加者が少ないように感じる。平和祈念式の日だけでなく、町民が平和について考えるような取り組みや啓発をしてはどうか。



貴多 正幸 議員

答 終戦から72年の歳月が経過し、戦争を体験していない世代が8割を超えている。その中で、町としてできることは、戦争の悲惨さや恐ろしさを次世代に継承していくことであると認識している。戦争を知らない世代に少しでもたくさんさんの参加をいただき、平和の尊さを次世代に継承できる祈念式となるよう工夫する。

問 平和祈念式の今後は

答 平和の尊さを次世代に継承できる祈念式へ

また、戦争に関するパネルや資料についても、ならず、さらに啓発する平和祈念式の開催日のみ、ことを検討していきたい。



平和祈念式における中学生の作文発表

問 住宅確保対策の進捗状況は

答 町内の資源を活用して
住宅確保を進める



森山 敏夫 議員

答 重点施策プロジェクトの一つとして、町内各所の資源を活用すべく事業を進めている。現在、住宅候補地におけるインフラ関係などの課題抽出に努め、将来的な財政負担などと将来を見据えた住宅地整備の方向性を検討し進める。

問 住宅確保対策は、政策提言の人口減少に歯止めを掛ける取組みの一つ。新たな受け皿づくりとして各地域に潜在的に存在している資源の、具体的な進捗状況は。



動き出した須恵町有地

問 公共交通システム構築の進捗状況は

答 本町に適した公共交通整備を目指す



路線バス

答 岡屋線など滋賀竜王工業団地への延伸は、公共交通システム構築とは別に進めている。プロジェクトチームでは、路線バス利用促進の主な対象を学生に絞り、社会実験として定期補助や夜間便の増便を検討している。その他、企業との連携による入寮者への回数券補助、高齢者のデマンドタクシーの活用や免許証自主返納時の補助制度を、移動不自由者には、地域で移動支援の取組みを検討するなど複数の施策を織り交ぜ、本町に適した公共交通のあり方を現在検討している。

問 本件は、重点的に取り組む課題の一つであると認識するが抜本的な対策が見えないまま、公共交通網の整備が工業団地を中心とした路線整備だけで進んでいる。重点施策プロジェクトで示されているコンパクトシティ化も視野に入れ、交通網の整備が必要になると考えるが、現在の進捗は。

問 台風21号の教訓と危機管理は

答 マニュアルの見直しを実施する



弓削地先冠水状況

答 町としては4年前の教訓を生かし、台風対応としてまずは人的被害を出さないことを念頭に避難情報の早期発令、避難場所の早期開設、応急対策として河川の決壊等に対応するための大型土のうの備蓄を行ってきた。今回の対応は関係部門との連携および管理体制を含めて概ね機能していたと思うが、今回見えてきた課題を含めて、平成30年度に竜王町防災計画などの見直しを実施したい。

問 10月の台風21号は、町内で多くの被害が発生した。管理体制は十分機能していたか、避難情報の伝達に問題は無かったのかなど、今回の台風で得た教訓とそれを活かすべく危機管理体制について、現状と問題点を明確にして改善が必要な項目への具体的な対応策は。



松浦 博 議員

問 コンパクトシティ化の進捗は

答 平成33年度末に方向性を示す

答 将来的に役場周辺に学校、商業施設などの集約化の実現を図りたい。プロジェクトの検討では、総合計画など他の計

問 コンパクトシティ化は、住民生活の利便性の向上と人口減少、少子高齢化に起因する財政難など多くの課題を抱える町にとって有効な対策である。「役場周辺に学校や病院、商業施設、住宅などを集約する」と提言されたが、その進捗は。



コンパクトシティのイメージ

画との整合や財政面の連携を取りつつ検討を重ねている。各プロジェクトの進行で、大きな判断が必要となる場合は、コンパクトシティ化を見据えて大局的な見地から首長としてのリーダーシップを発揮し町民の合意を得て、慎重かつ丁寧に進める。平成30年度末には教育施設のあり方の提言を受け、31年度には一定の方向を示し、コンパクトシティ化は33年度末に方向性を示せるよう努める。



古株 克彦 議員

問 空き家の有効活用が進む一方、情報が全く入らず実態が全くつかめないケースがあり区長さんが苦慮されている。

① 町内の空き家の実態把握は。
② 地域コミュニティと行政の関わりは。
③ 空き家対策の今後の取組は。

答 ① 平成28年度は143戸で、売買や賃貸として活用してもよいという回答は18戸。② 受け入れ側への助言も含め課題解決へ向けた支援を検討する。③ 空き家のアンケート調査を基に、売却、賃貸を希望される物件につ

問 空き家対策は

答 全国版空き家・空き地バンクの活用を検討

いては、問い合わせ時に紹介している。29年度は、5月と9月に1件ずつ、話がまとまった。今後、全国の空き

家等の情報が検索できる「全国版空き家・空き地バンク」制度の活用を検討する。



活用予定の小口地先の空き家

問 新川決壊の原因と 予防対策は

答 県が被災原因を整理



内山 英作 議員

答 河川管理者によると、現時点で決壊した原因は特定できないとのことだ。

問 大きな被害をもたらした台風21号が昨年10月に本町へ襲来した。一級河川新川の決壊で、特に弓削地先では、里中道路・田畑の冠水、工場から油が流出したことにより大きな被害が発生した。河川決壊の原因と予防対策は。



弓削・小日吉神社から領善寺方面を望む
(県道や田畑は一面にわたり冠水し、大海原となっている)

ある。
本復旧にあたって、災害査定のための測量設計業務を発注されており、この中で被災原因を整理すると聞いている。
12月6日、7日に滋賀県知事をはじめ、副知事、土木交通部長、東近江土木事務所長あてに災害復旧への対応と支援について、議会と共に町民の安全で安心した生活の維持確保のため強く要望を行った。

問 竜王町北部地域の浸水対策は

答 浸水対策事業要件に該当しない

問 平成26年に台風被害のあった高知県仁淀川水系の支流では、床上浸水(251戸)や田畑の浸水など大きな被害が発生し、現在、国・県の支援で浸水対策



集落から国道8号を望む(西横関地先)

事業が行われている。この事業が、竜王町北部地域で可能か。

答 浸水対策事業の事業採択に関しては、採択要件の一つとして過去概ね

10年間の河川の氾濫による被害が「延べ床上浸水家屋数が50戸以上」との項目が設けられており、今回の台風被害には該当しない。



小西 久次 議員

問 就学前教育と 学校教育の未来は

答 個々の会議・委員会の方針を
踏まえていく

問 ① 幼保あり方検討部会において質の高い就学前教育・保育が重要と捉えた「就学前に育つてほしい10の姿」を本町の柱として考えているが、認定こども園の時期は諸問題もあり慎重に考えたい。

② 小学校においては、児童数が減ってもすぐに学級数が減るものではなく、急ぎ統合を視野に入れる段階ではないと考える。

問 ① 幼保あり方検討の中で園運営の検討状況と認定こども園への検討は。

② 幼稚園・小学校・学童保育所の統廃合の考えは。



子ども未来会議

答 今回の法改正は、農用地の利用集積の促進等を内容としており、土地改良区設置に関する規定は含まれていない。町営で圃場整備事業・かんがい排水事業に取り組んできたことから農村保全委員連絡協議会を中心として進めてきた経過もあり、今

問 圃場整備後の維持修繕事業は土地改良区が事業主体ならば、補助事業採択が受けやすいと聞くがどうか。土地改良法の改正がされた町の見解は。

答 今回の法改正には含まれていない

問 土地改良団体の
設置は

後も、世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策事業の状況も踏まえつつ、連絡協議会を中心に課題に対応しながら農業関係者・団体と連携し適正な維持管理・継続のあり方について検討する。



農家による修繕作業

問 重点道の駅の課題解決は

答 かがみの里出荷者通路確保調整中

問 ① 道の駅竜王ががみの里出荷者出入口が12月末日で閉鎖されると聞くが、アクセス通行路は確保できないのか。

② 道の駅アグリパーク竜王の直売所拡張計画の進展は。

答 ① 当該通行路は、自己の所有地の中を不特定多数の方が通行され、交通事故などが起った際の管理責任等の問題により現土地所有者から、通行禁止の通告をされた。

しかし、出荷者の安全確保等のため、引き続き通行ができるよう通行条件など最終調整を図っている。

② アグリパーク直売所は国の交付金活用を前提に内容検討をしている。



現在の出荷者出入口

問 台風21号の被害は

答 課題もあるが復旧に努める



森島 芳男 議員



通路や広場には、たくさんの土が堆積した

問 妹背の里や農村運動広場は、台風21号により大きな被害が発生している。復旧にはどの程度の費用が必要であるか。

をされていたこともあり、大きな被害には至らなかった。指定管理者と協力し数日後には営業を再開。復旧費用は約20万円を支出した。農村運動広場の照明設備等修繕は約40万円を指定管理者の日常管理費の中で支出した。

答 妹背の里は、4年前の台風18号による被害を教訓に、施設の指定管理者によって自己防止策

また、復旧には、指定管理者だけでなく、多くのボランティアの皆様との協力で11月下旬から12月初旬に大半が使用可能となった。

問 身体が不自由な方への配慮は

答 誰もが使いやすい庁舎にする



玄関に設置されている車椅子

問 庁舎の玄関に車椅子が置いてあるが、利用しようとするとき、タイヤの空気が抜けていたというようなことを耳にする。常に使えるようにしておくことが必要であると思うが、点検が行われているのか。

答 庁舎に設置している車椅子については、必要な方がいつ来庁されても

利用できる状態にしておくべきものである。タイヤの空気が抜けていたために、来庁者に迷惑をかけたことは、点検が行き届いていなかったということである。

今後は、来庁される方が安心して庁舎を利用できるように安全を最優先に考え、施設内の点検に努めていく。



若井 猛志 議員

問 「我が事・丸ごと」

地域共生社会と社会保障は

答 国の動向を注視し町民と共に築いていく

問 ①地域共生社会の実現に向けて介護保険法・健康保険法・子ども子育て支援法など改革工程がまとめられたが、町はどのように捉えているのか。

②地域共生社会は、包括的な相談支援体制を整備するものであるが、社協等に委託するとな

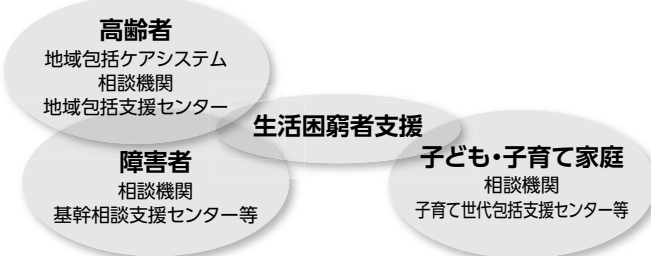
っていて、自治体の責任が不明確であることは否めない。町はどのように考えるのか。

生社会の考え方を共有していただき、誰もが安心して暮らし続けることができる町を町民と共に築いていけるよう努める。

答 ①国の示す地域共生社会は生活課題を「我が事」として主体的に関わり、制度・分野ごとの縦割りや立場を超えて、人と人、人と資源が「丸ごと」つながって生きがいや暮らしを共に創っていく社会である。具体的な展開方法は、不明瞭なところが多く、今後、国の動向を注視していく。

②今年度、地域福祉計画の改訂に合わせ、自助、互助、共助、公助の役割拡充に向けて計画の策定を進めていく。

行政は社協等と連携し、多くの町民の方に地域共



地域共生社会の実現に向けた包括支援体制



追跡!! あの一一般質問はその後どうなった??



議員の質問に、町がその後どのように対応したかを追跡・検証してみました。

地域情報・防災情報システムの構築について (平成25年第1回定例会一般質問より)

問 緊急情報を瞬時に町民全員に伝達できる方法など、町の『地域情報化』の取り組みは。

答 災害などでは、「一番ほしいものは情報」といわれる。住民に等しく、素早く情報が伝達でき、享受できる情報に格差が生じることのないよう、地域防災情報システムの具現化に取り組んでいく。

◎その後

地域防災情報システム整備計画

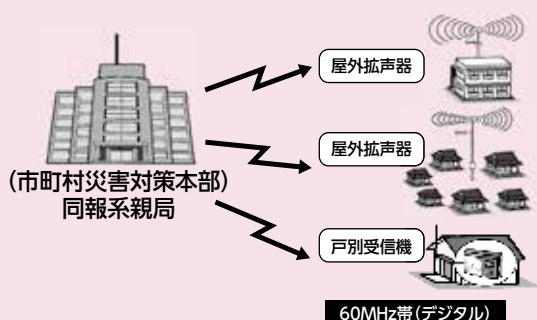
*平成29年度基本設計

*平成30年度実施設計と

住民への周知

*平成31・32年度整備工事

なお、地域防災情報システムが構築できるまで「防災情報の受信」、「有線放送電話の通話」、「ページング放送」など、有線放送業務の一部を電王町が事業継承する。



「いちご」と「トマト」ハウスは健康増進の楽園

昭和38年から平成16年まで40年余の間、竜王町の職員として町役場に勤務させていただきました。その後、平成16年7月から竜王町助役として、平成19年4月から副町長として、合わせて4年間務めさせていただきました。

その間、大勢の町民の皆様方との関わりを持たせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

振り返ってみて一番に思い浮かぶのが、「道の駅竜



楽園のハウスでいちご栽培

王かがみの里」建設事業であります。当時、私は産業建設主監でありましたが、道の駅へ出向し開店の準備をすることになりました。何分初めてのことでわからないことばかりでありましたが、業界の経験者の方々の力をお借りして平成15年11月にオープンすることができました。

副町長退任と同時に、道の駅建設で学んだことを実践に結び付けたいという思いから、「いちご」と「トマト」の栽培を始めました。

元々、野菜づくりが大好きで若い頃から家庭菜園で自家用野菜を作っていましたが、「いちご」、「トマト」となると難しいことも多く大変でした。しかし、栽培を始めて10年になりますが、一日一日成長していく「いちご」や「トマト」を見ていると頼もしくも愛しくもなり、楽しいものです。

今でもハウスの中で毎日8,000歩から10,000歩を歩いています。「いちご」と「トマト」のハウスは私の健康増進の楽園なのです。

町文化協会では、平成7年から10年間、「いろは文字」を文化祭出展創作として、全地区が、竜王の名所旧跡や歴史文化などを詠んだ短歌とその短歌が伝えるイメージを立体作品化する取り組みをされてきました。

平成19年に出版作品から秀作47首を選び、世界に一つの「竜王いろはカルタ」として完成されました。

子どもたちが「竜王いろはカルタ」を通して、ふるさと竜王の歴史文化などに触れ、愛郷心を育むとともに、地域への広がりを目指す取り組みとして大会を開催されています。

議会広報特別委員会

委員長	内山 英作
副委員長	古株 克彦
委員	菱田 三男
委員	若井 猛志
委員	貴多 正幸
委員	小森 重剛



世界に一つの
「竜王いろは歌留多」

編集後記

このたび議会の役員改選により、ほとんどが新たに広報委員となりました。

前期委員会が作成した「広報編集マニュアル」に基づき、興味を持って読んでいただけるよう紙面づくりに努めました。

さて、昨年は、台風21号によって本町にも大きな爪痕を残しました。改めて自然の猛威を痛感しました。

議会といたしましても、天井川の抜本改修など、国・県に対して要望・陳情活動を強く推し進めてまいります。

また、今後さらに開かれた議会、説明責任の果たせる議会をめざし努力してまいります。